

平成5年度
消化器癌病理学コース
帰国研修員フォローアップチーム報告書
—公開技術セミナー—

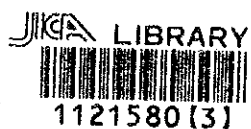
平成6年2月

国際協力事業団
東京国際研修センター

701
93
TIH
BRARY

東国セ
JR
94-004

平成5年度
消化器癌病理学コース
帰国研修員フォローアップチーム報告書
—公開技術セミナー—



28267

平成6年2月

国際協力事業団
東京国際研修センター

国際協力事業団

28267

序 文

本報告書は、帰国研修員フォローアップ事業の一環として、アルゼンティン及びコロンビアで開催した消化器癌病理学分野公開技術セミナーに派遣された専門家チームの帰国報告書です。

帰国研修員に対する巡回指導は、従来より特定集団研修コースの帰国研修員を主として対象に実施してきましたが昭和61年度からは、指導領域を特定分野に限定せず、これを関連分野にまで広げることとし、対象者も帰国研修員の所属先及び関連機関の関係者まで含めることにより、より大きな指導効果を上げることを目的としています。

消化器癌病理学分野の公開技術セミナーは第一回の開催として、平成元年11月にブラジル、アルゼンティン、エクアドル及びチリで開催されました。今回のセミナーでは両国の消化器癌病理学分野の現状を踏まえて世界の最高水準にある専門家による最新の技術・知識を紹介し、併せて両国が本件分野に於いて抱えている問題点について積極的に討論することに重点を置きました。

この報告書により、関係各位のさらに深いご理解をいただき、本フォローアップ事業の今後の向上改善に資することが出来れば幸いです。

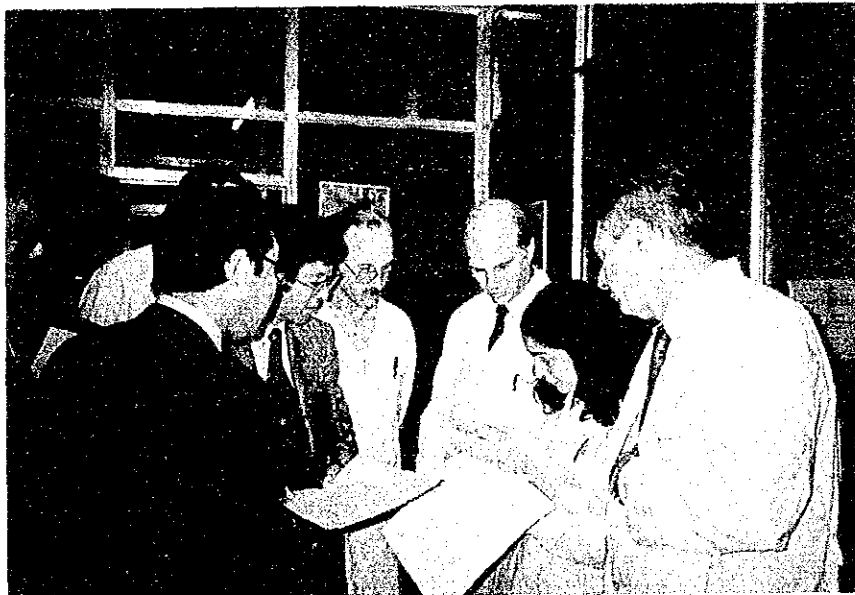
最後に、本セミナー開催にあたり、多大のご協力とご尽力をいただいた外務省、文部省、厚生省、在外公館、並びに各国の関係機関各位に深く感謝の意を表す次第です。

平成6年2月

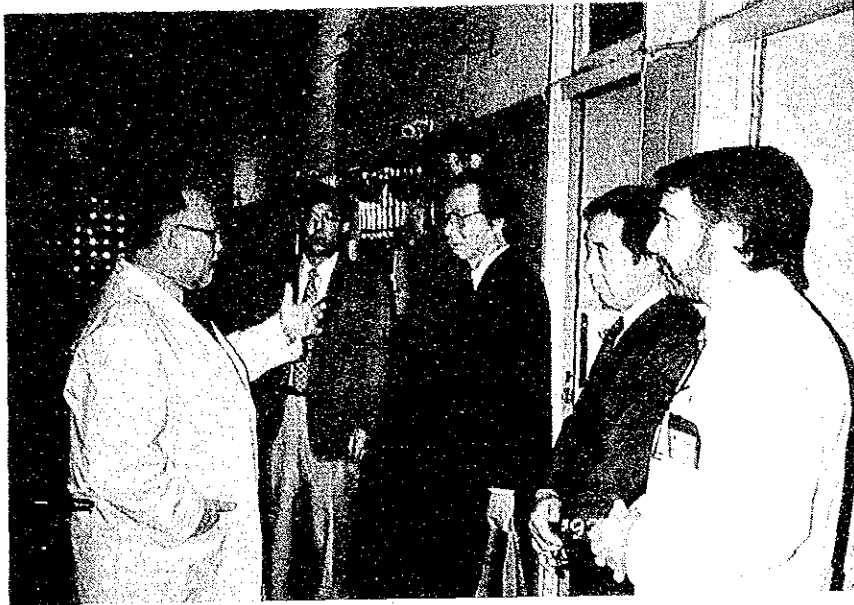
東京国際研修センター
所長 田 口 定 則



(国立ラ・プラタ大学医学部前で帰国研修員と)



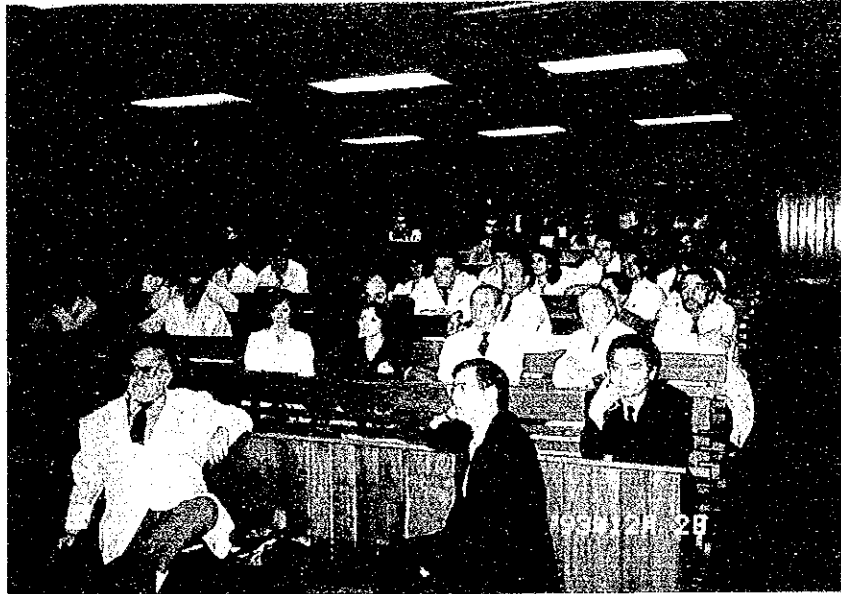
(国立ラ・プラタ大学附属サン・マルティン総合病院視察風景)



(ブエノス・アイレス大学附属サン・マルティン病院視察風景)



(ブエノス・アイレス大学附属サン・マルティン病院視察風景)



(ブエノス・アイレス大学附属サン・マルティン病院におけるセミナー風景)



(ブエノス・アイレス大学附属サン・マルティン病院におけるセミナー風景)



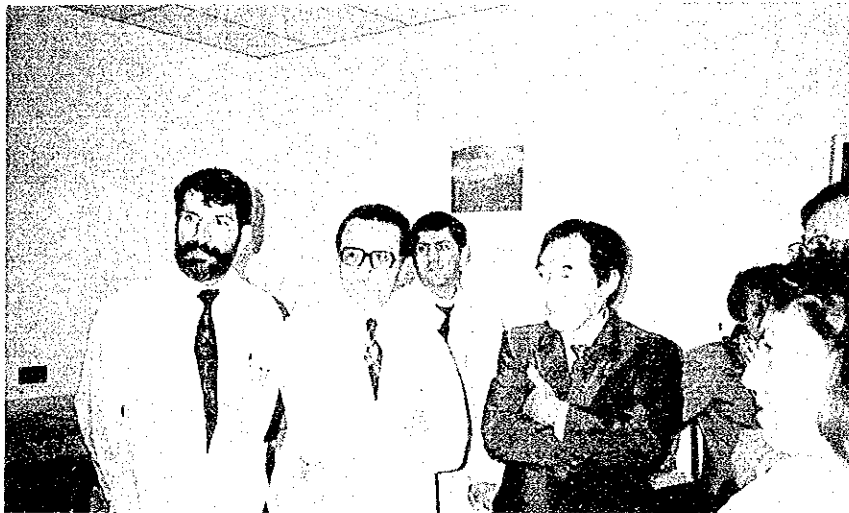
(ボゴタプラザホテルに於けるセミナー風景)



(ボゴタプラザホテルに於けるセミナー風景)



(バベリアナ大学医学部サン・ボルハ病院視察風景)



(国立癌研究所視察風景)



(コロンビア大学サン・ファン・デ・ディオス病院視察風景)



(コロンビア消化器学会主催昼食会 於トラモンティ)

目 次

序 文	
写真集	
I. フォローアップチームの概要	1
1. 派遣目的	1
2. 分野、セミナー開催地、チーム派遣期間	1
3. チーム構成	1
4. 主要面会者	2
5. 日程	4
6. 研修コース概要	5
II. 公開技術セミナー実施報告	12
1. セミナー開催地及び開催期間	12
2. セミナー参加者	12
3. セミナー内容	12
III. 訪問病院(研究所)と帰国研修員の活動状況	12
1. アルゼンティン	12
(1) ラ・プラタ大学サン・マルティン総合病院	12
(2) ブェノス・アイレス大学附属サン・マルティン病院	13
(3) 付記:アルゼンティンの医学教育について	14
2. コロンビア	14
(1) ハベリアナ大学医学部サン・ボルハ病院	14
(2) 国立癌研究所	15
(3) コロンビア大学サン・ファン・デ・ディオス病院	15
(4) サン・ラファエル病院	15
IV. 総括	16
1. 公開セミナーの内容と評価	16
(1) アルゼンティン	16
(2) コロンビア	16
2. 現地でのローカル・ニーズと現行コース・プログラムについて	17
V. 提言	18
VI. 資料	19
1. セミナー参加者リスト	21
2. クェッシュョネア集計結果	28
3. セミナープログラム	33
4. 修了証書(アルゼンティン)	36
5. 団長閉講式あいさつ(コロンビア)	37
6. クェッシュョネア	39

4. 主要面会者

イ. アルゼンティンにて

(イ) 日本側

1) JICAアルゼンティン事務所

川上 礼司	事務所長
金木 克公	総務課長
永野 征一	業務第二課長

(ロ) アルゼンティン側

1) ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院

DR. HORACIO MANUEL PIANZOLA

DR. MARCELO ANDRES PIANZOLA

DR. FELIX JOSE CORRONS

DRA. ANABEL CRISTINA OTTINO

2) ブエノスアイレス大学付属JOSE DE SAN MARTIN病院

DR. FLORENTINO SANGUINETTI

Prof. Dr. CARLOS E. CERINI

DR. SANTIAGO DE ELIZALDE

DRA. MARIA ALEJANDRA AVAGNIA IRIBARREN

ロ. コロンビアにて

(イ) 日本側

1) 在コロンビア日本国大使館

高野 博師	参事官
-------	-----

太田 勝也	一等書記官
-------	-------

2) JICAコロンビア事務所

富田 実	事務所長
------	------

(ロ) コロンビア側

1) ICETEX

SR. JOSE REVELO

技術副部長

Sra. FRANCY ROJAS

国際プログラム部長

2) JAVERIANA大学医学部

Prof. Dr. JOSE ALEJANDRO DRADO ROMO

3) 国立癌研究所 (INC)

Dra. MARTHA HELENA ACOSTA DE MOLINA

Dra. MARIA CLAUDIA ABAUNZA

4) コロンビア大学附属サン・ファン・デ・ディオス病院

Dr. ORLANDO GUERRERO RICAURTE

Dr. ODILIO MENDEZ SANDOVAL

5) サン・ラファエル病院

DR. LEONEL ANTONIO CHAVEZ VELA

DR. OSCAR LOPEZ

DR. GERMAN LIEVANO

5. 日程

日順	月日(曜)	行 程	宿泊地	
1.	11・29(月)	《清成・下田・丹羽》 東京発 19:00(RG-833)	機中	
2.	11・30(火)	ブエノスアイレス着 12:00 JICA事務所打合せ	ブエノスアイレス	
3.	12・1(水)	サンマルティン総合病院/国立ラプラタ大学医学部視察	〃	
4.	12・2(木)	《中村》 東京発 19:00(RG-837)	〃	
5.	12・3(金)	《中村》 ブエノスアイレス着 12:00 公開セミナー開講式/セミナー実施(清成講師/下田講師) 於ブエノスアイレス大学付属サンマルティン病院 サンマルティン病院視察 セミナー実施(中村講師/下田講師) 公開セミナー閉講式 懇親会(PLAZA HOTEL)	〃	
6.	12・4(土)	資料整理	〃	
7.	12・5(日)	資料整理	〃	
8.	12・6(月)	《下田・丹羽》 ブエノスアイレス発 12:40(AV-088) ボゴタ 着 18:40	ボゴタ	サンティアゴ
9.	12・7(火)	《中村・清成》 ブエノスアイアレス発 12:35(AR-205) サンティアゴ 着 13:40JICA事務所打合せ	〃	〃
10.	12・8(水)	《下田・丹羽》 JICA事務所打合せ、日本大使館表敬訪問 ICETEX表敬訪問、ハベリアナ大学病院視察	〃	〃
11.	12・9(木)	《中村・清成》 サンボルハ病院 医協プロジェクト・第三国研修打合せ 祭日	ボゴタ	
12.	12・10(金)	《中村・清成》 サンティアゴ発 9:30(UC-300) ボゴタ 着 16:00	ボゴタ	
13.	12・11(土)	JICA事務所打合せ コロンビア消化器学会主催昼食会 クリニカ・サン・ラファエル視察	〃	
14.	12・12(日)	セミナー実施 (中村講師/下田講師)於ボゴタプラザホテル	〃	
15.	12・13(月)	セミナー実施 (清成講師/DR. LEONEL CHAVEZ VELA講師)閉講式	〃	
16.	12・14(火)	《中村》 ボゴタ発 9:45(MX-390) ロス経由東京着 14日 16:55	〃	
17.	12・15(水)	国立癌研究所/ コロンビア大学サン・ファン・デ・ディオス病院視察	〃	
18.	12・16(木)	《清成・下田・丹羽》 ボゴタ発 9:30(AV-072) メキシコシティ着 12:50 メキシコシティ発 8:00(DL-465) ロス経由 東京着 16:55	メキシコシティ	機中

6. 研修コース概要

(1) コース名等

① コース名

和文：消化器癌病理学コース

英文：PATHOLOGY OF GASTROINTESTINAL CANCER COURSE

② 研修期間(平成5年度)

a. 全体受入期間 平成5年8月31日(火)～平成5年11月26日(金)

b. 技術研修期間 平成5年10月12日(火)～平成5年11月19日(金)

③ 定員

10名

(2) コースの目的・背景

① 目的

世界の最高水準にあるわが国の消化器癌疾患診断に関する臨床病理学を紹介し、発展途上国における当該分野のレベルアップをはかり、高度な技術を有する消化管疾患診断グループを養成する。

② 背景

癌の進行予防は、その早期診断と治療にかかっており、消化器は人体中最も癌発生率の高い器官である。この消化器癌の早期発見のためには、放射線ならびに内視鏡による診断のみならず、その最終ステージに於ける"病理学的、組織学的診断"が極めて重要である。これら三種の診断は、早期消化器癌診断・治療に於いて"三位一体"をなすものであり、これら三種の総合診断システムの確立こそが消化器癌の早期診断・治療の有効性をさらに高めるため不可欠である。したがって、消化器を専攻する病理学者が早期癌発見に果たす役割は計り知れないものがあり、途上国の主導的病理学者の本邦研修が極めて重要となっている。

(3) 到達目標

研修員が研修期間の修了までに、消化器癌病理学に関し次のことができるようになること。

- イ) 広範囲にわたる基礎的知識を習得すること。
- ロ) 正確かつ適切な診断ができること。
- ハ) 研究活動の手掛かりをつかむこと。

(4) 研修項目・研修方法

① 研修項目

本コースは、次の4部により構成される。

- | | |
|--------------------|-----|
| イ) 一般オリエンテーション・諸手続 | 1週間 |
| ロ) 合同研修 | 4週間 |
| ハ) 専門別研修 | 6週間 |
| ニ) 研修旅行 | 1週間 |

主たる講義、実習の内容は次の通り。

- イ) 食道疾患の病理学と生検組織診断
- ロ) 胃疾患の病理学と生検組織診断
- ハ) 十二指腸の病理学と生検組織診断
- ニ) 大腸の病理学と生検組織診断
- ホ) 肝臓・胆嚢・すい臓の病理学と生検組織診断

② 研修方法

消化器癌疾患診断に関する臨床病理学全般の主項目について、合同で約1ヵ月間概要の講義と実習を行ない、その後は個別に分かれて、専門別研修受入機関にて実地研修を行う。また、この間必要に応じ研究所・学会等の見学を行う。

③ 教材・資機材

イ) 研修教材

各講師が選定もしくは作成した英文テキスト及び組織標本を使用する。

ロ) 研修資機材

- a. スライド等効果的研修用資機材を使用する。
- b. 受入研修機関の資機材を必要な範囲において利・活用する。

(5) 研修員参加資格要件

① 応募要件

- イ) 所定の手続きに基づき各国政府が推薦する者
- ロ) 大学卒業もしくは同等以上の学識があり、かつ病理学の専攻者であって、十分な研究実績を有する者
- ハ) 十分な英会話及び英文読解力を有する者
- ニ) 心身ともに健康な者

② 割当国

13カ国

大韓民国、トルコ、アルゼンティン、ボリヴィア、ブラジル、チリ、
コロンビア、エクアドル、ペルー、ウルグアイ、タイ、インドネシア、
ヴェネズエラ

(6) 研修実施体制

① 実施体制概要

国際協力事業団が、東京医科歯科大学他5機関に本コースの研修実施を委託する。

② 研修運営機関

a. 研修実施機関

国際協力事業団 東京国際研修センター

(TIC : Tokyo International Centre)

〒151 東京都渋谷区西原2-49-5

電話 : 03-3485-7051

FAX : 03-3485-7904

b. 研修委託機関

- ・ 東京医科歯科大学(合同研修)
〒113 東京都文京区湯島1-5-45
電話：03-3813-6111
FAX：03-3813-7174
- ・ 浜松医科大学(専門別研修)
〒431-31 静岡県浜松市半田町3600
電話：0534-35-2218
- ・ 新潟大学(専門別研修)
〒951 新潟県新潟市旭町通2-746
電話：0252-23-6161
- ・ 東京医科歯科大学(専門別研修)
〒113 東京都文京区湯島1-5-45
電話：03-3813-6111
FAX：03-3813-7174
- ・ 東京医科大学(専門別研修)
〒160 東京都新宿区西新宿6-7-1
電話：03-3342-6111
- ・ 東京都立駒込病院(専門別研修)
〒113 東京都文京区本駒込3-18-22
電話：03-3823-2101
- ・ 慈恵会医科大学(専門別研修)
〒105 東京都港区西新橋3-25-8
電話：03-3433-1111

7. 研修実施機関および関係者

東京医科歯科大学

学 長	山本 肇	〒113 東京都文京区湯島1-5-45 TEL 03-3813-6111
医学部長	鈴木 章夫	
病理学教授	中村 恭一	内線3150
病理学助教授	岡安 勲	内線3577
病理学講師	江石 義信	内線3153
病理学助手	寺田 充彦	内線3153
病理学助手	明石 巧	内線3153

講 師 名 簿 (ABC順)

江石 義信	東京医科歯科大学医学部病理学講師 〒113 東京都文京区湯島1-5-45 TEL 03-3813-6111 内線3153
廣田 映五	東京医科大学病院病理部助教授 〒160 東京都新宿区西新宿6-7-1 TEL 03-3342-6111
板橋 正幸	茨城県立中央病院病理科医長 〒309-17 茨城県西茨城郡友部町鯉淵6528 TEL 0296-77-1121
小池 盛雄	都立駒込病院病理部長 〒113 東京都文京区本駒込3-18-22 TEL 03-3823-2101
清成 秀康	国立病院九州がんセンター放射線科部長 〒815 福岡市南区野多目595 TEL 092-541-3231

- 喜納 勇 浜松医科大学病理学教授
〒431-31 浜松市半田町3600
TEL 0534-35-2218
- 加藤 洋 癌研究会癌研究所病理部主任研究員
〒170 東京都豊島区上池袋1-37-1
TEL 03-3918-0111
- 望月 福治 仙台市医療センター・仙台オープン病院院長
〒983 仙台市鶴ヶ谷5-22-1
TEL 022-252-111
- 長与 健夫 愛知がんセンター名誉総長
〒464 名古屋市千種区春里町1-20 (自宅)
TEL 052-751-5225
- 中村 恭一 東京医科歯科大学医学部病理学教授
〒113 東京都文京区湯島1-5-45
TEL 03-3813-6111 内線3150
FAX 03-3818-7174
- 岡安 勲 東京医科歯科大学医学部病理学助教授
〒113 東京都文京区湯島1-5-45
TEL 03-3813-6111 内線3577
- 斉藤 澄 国立病院医療センター臨床検査科病理医長
〒162 東京都新宿区戸山1-21-1
TEL 03-3202-7181 内線2443
- 下田 忠和 慈恵会医科大学病理学助教授
〒105 東京都港区西新橋3-25-8
TEL 03-3433-1111
- 田原 栄一 広島大学医学部病理学教授
〒734 広島市南区霞1-2-3
TEL 082-251-1111

谷口 春生 大阪府成人病センター研究所病理部
〒537 大阪市東成区中道1-3-3
TEL 06-972-1181

曾我 淳 新潟大学医療技術短期大学外科学教授
〒951 新潟市旭町通2-746
TEL 025-223-6161

滝沢登一郎 都立駒込病院病理部医長
〒113 東京都文京区本駒込3-18-22
TEL 03-3823-2101

若狭 治毅 福島県立医科大学学長
〒960 福島市光ヶ丘1-1
TEL 0245-48-2111

渡辺 英伸 新潟大学医学部病理学教授
〒951 新潟市旭町通1-757
TEL 025-223-6161 内線2280
FAX 025-223-0283

柳沢昭夫 癌研究会癌研究所病理部研究員
〒170 東京都豊島区上池袋1-37-1
TEL 03-3918-0111

石黒信吾 大阪府成人病センター研究所病理部
〒537 大阪市東成区中道1-3-3
TEL 06-972-1181

II. 公開技術セミナー実施報告

1. セミナー開催地および開催期間

<アルゼンティン> ブエノスアイレス大学付属サンマルティン病院、
ブエノスアイレス

平成5年12月2日～3日(2日間)

<コロンビア> ボゴタプラザホテル、サンタ・フェ・デ・ボゴタ

平成5年12月10日～11日(2日間)

2. セミナー参加者

<アルゼンティン> 帰国研修員9名を含む60名が参加

(別添-参加者リスト参照)

<コロンビア> 帰国研修員11名を含む65名が参加

(別添-参加者リスト参照)

3. セミナー内容

中村 恭一

1. 胃癌の組織発生とその臨床病理への応用
2. 大腸癌の組織発生とそれからみた癌の発育進展様式

清成 秀康

1. 日本における消化器癌の集団検診
2. 消化器癌診断のフェイル・セイフ・システム

下田 忠和

1. 胃分化型癌の組織発生とその診断における問題点
2. 大腸 de novo 微小癌の形態発生とその発育進展

III. 訪問病院(研究所)と帰国研修員の活動状況

1. アルゼンティン

(1) ラ・プラタ大学サン・マルティン総合病院

1993年12月1日、ブエノス・アイレス市の北60kmにある、ブエノス・アイレス州の州都ラ・プラタ市に行き、サン・マルティン総合病院の病理部を訪ねた。ここにはDr. Horacio Manuel Pianzola(1988年研修医)、Dr. Marcelo Andres

Pianzola(1989年研修医)、Dr. Felix Jose Corrons(1990年研修医)、Dra. Anabel Cristina Ottino(1991年研修医)の4人が勤務している。

この病院はラ・プラタ大学の付属病院で、病床が約1000床の大病院であるが、年間の解剖数は1992年で25体と少ない。20年以前には年間約500体の剖検数があったとのことである。解剖数の減少は日本だけではなく世界的傾向である。消化管の病理診断については、日本で研修した病理医が4人いるため、診断基準や症例検討のすすめ方などについては周囲の抵抗は少なく、日本で学んだことを生かしてラ・プラタ地区の消化管癌の早期診断をリードしている。但し、施設全体は老朽化していて機器類に乏しく、また数少ない機器は一般的に旧式である。

病理部門では日本で学んだことを実際に実行している。例えば、日本では早期胃癌の切除胃全体を病理組織学的に検査し、その診断結果とX線・内視鏡所見との一対一対応を行っている。ラ・プラタ大学の付属病院でも上記4人の病理医が中心となって早期癌切除胃の全割を行って病理組織学的に検討し、かなりの成果を挙げている。例えば、その検討によって胃重複癌症例が発見されている。その結果は"GASTROENTEROLOGIA LATINOAMERICANA"に投稿中であるとのことである。また、最近では大腸の微小癌をも発見しているとのことである。

内視鏡室および病理学教室を視察後、医学部長および多くの医師と懇談した。その中で、日本と消化器癌の早期診断と治療に関するプロジェクト協力の希望が述べられた。

(2) フェノス・アイレス大学付属サン・マルティン病院

フェノス・アイレス市の中心部にあり、巨大な病院である。この病院の講堂が、2日間の公開セミナーの会場として使用され、消化器病学会がセミナー総ての運営を受け持ってくれた。この病院の消化器病部門には、Dr.チグリアニ、Dr.マルセロなど、チリ第三国研修会に参加した臨床医が数人働いて、内視鏡部長などの責任ある地位についていて活躍している。また、内視鏡部門には、JICA供与の電子内視鏡、内視鏡超音波診断装置などの新鋭機器があり、有効に使用されていた。この病院の病理にはDra. Maria Alejandra Avagnina Iribarren(1983年研修医)、Dr. Santiago de Elizalde(1987年研修医)が所属していて、消化管癌の病理の分野で活躍している。

(3) 付記：アルゼンティンの医学教育について

アルゼンティンでは1945年にペロン政権誕生の際、“学ぶ権利”が憲法上制定され、大学進学希望者は大学、学部を問わず、入学試験なしに入学できるようになり、この制度は現在に至るまで続いている。したがって、一つの大学の一学年の医学部入学者数が1992年でコルドバ大学4500人、ラ・プラタ大学3700人、ブエノス・アイレス大学5000人と、日本の大学医学部の入学者数が100人前後であるのと比べると想像を絶する人数を一つの大学医学部に收容しており、教育の方法、質などとても我々には考えられない状態が現実に存在している。これらの入学者は6年間の間に多数の落後者を生むが、それでもラ・プラタ大学の場合1200人程が卒業するとのことである。卒業後に医師国家試験はなく医師協会に登録するだけで医師としての資格が得られる。

ラ・プラタ大学医学部長は、このような現況を深く心配して、第一段階の改善策としてラ・プラタ大学の一学年の入学者を700人程度に減らしたいと話していたが、なかなか実現は困難とのことであった。このような制度の中で医師となった人々に聞いても、とても落ち着いて勉学できる状況ではなく、教育の態をなしていないとのことである。医学教育に占める実習実験の割合の大きさを考えると、現実にはどのようにして教育がなされているのか想像もできない。昨今、少数ではあるがキリスト教系の私立大学医学部が70人位の定員で医学教育を行っており、こちらは良質の学生が集まり、高い水準の教育がなされているとのことである。

2. コロンビア

(1) Javeriana大学医学部San Borja病院

この病院の病理部門の病理医は4人で、Dr. Jose Alejandro Dorado Romo(1983年研修医)が教授である。設備は比較的新しく、日本の器材もかなり見受けられた。今回視察した病院の中では、活動が鈍いように思われた。文献については新しいものはなく、大腸癌のde novo発生についても殆ど知識がないようであった。また、消化管癌の病理学的診断とそのファイリングについても特別なことはなされていない。これは病理医の日本での研修が相当以前のものであるためと考えられた。

(2) 国立癌研究所

Dra. Martha Helena Acosta de Molina(1985年研修医)が中心となり、消化器病症例の臨床と病理による症例検討会を週一回開いている。1992年に同研究所病理からDra. Maria Claudia Abaunzaが本研修会に参加し、現在では2人の帰国研修医によって症例検討会は運営されている。そこには、医学生も出席するとのことである。その検討会には、早期胃癌症例も呈示されるとのことである。

検討会を行う部屋は適当な広さであるが、その検討のための機器に乏しい。医師達が云うには、貴重な診断資料の呈示も機器が悪いために、日本で勉強してきた微細な所見に対する知識をここでは十分に検討あるいは伝達することができないとのことである。

(3) コロンビア大学サン・ファン・デ・ディオス病院

Dr. Orlando Guerrero Ricaurte(1991年研修医)がこの病院に所属している。

また、チリ第三国研修会に参加した内視鏡医および消化器病医が2、3人いて、その中の一人が内視鏡部長である。この病院においても徐々ではあるが、日本における早期胃癌発見に向けての協力体制が確立されつつある状態にある。とは云うものの、病院が大きく、X線医師・内視鏡医・病理医が三位一体となった消化管癌の早期発見体制を確立するまでには、人的ならびに器材の点で時間を要するであろう。

(4) サン・ラファエル病院

Dr. Leonel Antonio Chavez Vela(1982年研修医)が病理部長、そしてDr. Oscar Lopez(1989年、チリ第三国研修会研修医)が消化器病部長である。病院はあまり大きくなく、また、チリ第三国研修会あるいは日本における早期胃癌診断研修会と本消化管癌病理学研修会に参加した医師が少ないためか、消化管癌の早期発見のための協力体制が確立されているように見えるのであるが規模が小さく、周囲への波及効果は少ない。消化管の早期癌が発見された場合には、適宜、症例検討会を開いているとのことである。

IV. 総括

1. 公開セミナーの内容と評価

日本における本消化管癌病理学研修会と臨床医を中心とした早期医癌診断研修会およびチリ第三国研修会の研修医がボゴタのみならず地方からも多数参加し、セミナーは盛況を極めた。とにかく、アルゼンティンとコロンビアにおいては医学の最新情報、特に日本からのそれに渴望している。

(1) アルゼンティン

アルゼンティンにおいては大腸癌の頻度が高く、大腸癌の臨床と病理に関するセミナーでは多くの関心を集めた。Dr. Alfredo Eduardo Curras(1993年チリ第三国研修会研修医、アルゼンティン消化器病雑誌の編集委員)によると、Policlinica Bancariaにおける最近2.5年間の大腸癌患者数は215人、そのうち手術が可能であったのは僅か55人で、残り165人(74%)は手術不可能な進行癌であった。日本における大腸癌の早期診断については多大の関心を抱き、日本との大腸癌早期診断プロジェクト協力を切望している。

(2) コロンビア

コロンビアにおいては胃癌の頻度が高く、胃癌の臨床と病理に関するセミナーでは多くの関心を集めた。

チリ第三国研修会の研修医そして現在その研修会(1993、1994年度)の講師であるDr. Lazaro Arangoがセミナーで地方における胃癌集団検診をビデオで紹介した。施設と機器が乏しい中で、細々とではあるが胃癌集団検診をコロンビアの一地方で行っている努力は賞賛に値する。Dr. Lazaro Arangoが胃癌集団検診を行うようになったのも、チリ第三国研修会に参加したことによって得た知識が動機となっている。

Dr. Leonel Antonio Chavez Vela(1982年研修医)はコロンビアにおける胃癌について述べ、早期胃癌は100例中数例であり、早期胃癌の発見率を高めるためには三位一体の体制が重要であると結論した。

2. 現地でのローカル・ニーズと現行コース・プログラムについて

消化管癌の早期発見は、放射線医師、内視鏡医師そして病理医が三位一体となることによって始めて成就されるものである。このような三位一体体制の完成度という観点から各施設における現状を眺める時、その完成度は各施設における組織の大きさ、研修医の人的構成、そして器材に影響されていることが伺われる。研修医の人的構成とは、日本における本消化器癌病理学研修コースと臨床医を中心とした早期胃癌診断研修コース、そしてチリ第三国研修コースの研修医師のことである。完成度の判定基準としては、早期胃癌診断を目的とした日常の臨床医－病理医の交流度合いと症例検討会、そして質的には症例検討会と研究発表が挙げられる。

訪問した施設の三位一体体制の完成度を比較すると、一般的にそれら研修医が数人以上所属している施設においては完成度が高い。しかし、その完成度は組織の大きさに影響されている。アルゼンティンにおいてはブエノス・アイレス大学付属サン・マルティン病院とラ・プラタ大学の付属病院とにおける研修医の数を比較するならば、ブエノス・アイレス大学付属サン・マルティン病院はラ・プラタ大学の付属病院よりも多いのであるが、サン・マルティン病院の規模がラ・プラタ大学付属病院よりも大きいために、三位一体体制の完成度はラ・プラタ大学付属病院の方が高いと判断される。また、コロンビアについても同様で、コロンビア大学サン・ファン・デ・ディオス病院は国立癌研究所よりも施設の大きさと研修医の数で遥かに勝るのであるが、完成度は国立癌研究所において高い。同じ個数の石を湖と池とに投げ入れたときに湖の波紋はやがて消え去り、池の波紋は辺縁にまで及び、個数が多ければ多いほど波及効果は大きい。

質的な面での完成度については、いづれの施設においても器材の不足と老朽化が顕著であり、また日本からの情報不足もあって診断および研究水準は高いとは云い難い。しかし、関係者は早期診断向上のために努力していることは確かであり、我々はそれを評価するとともに可能な限り協力することが必要であろう。

現行コース・プログラムの講義と実習内容については、年々、最新の知識を盛り込んでいるので変更の問題はない。しかし、帰国研修医との情報交換そしてフォローアップ体制がないため、本コースの初期における研修医の知識

は遅れをとっているのが現状であろう。かつては本コースは一年一回、情報交換のための"NEWSLETTER"を発行していたのであるが、ある時点で発行することができなかつた経緯がある。貴重な時間と経費とを費やして研修コースを実施しているからには、帰国研修医に対するフォローアップ体制を確立して、息長く協力することが必要がある。教育ならびに協力の効果は直に表れるものではなく、20年30年と長い年月を必要なのである。

V. 提言

消化器癌の早期発見に関する研修コース、すなわち日本における消化器癌病理学研修コースおよび臨床医を中心とした早期胃癌診断研修コース、そしてチリにおける第三国研修コースが、JICAの協力によって実現されている。三研修コースに長年携わってきた立場から消化器癌早期発見に関する協力のありかたについて考える時、それら研修コースは個々にばらばらではなく互に強く関連しているから、JICAの消化器癌早期発見に関する協力の基本理念は"三位一体体制を各国に確立すること"にあると思われる。本消化器癌病理学研修コースのみならず、先の理念の上になつて愚見をまとめるならば次のようになる。すはわち、

1. 帰国研修医に対する文献、"NEWSLETTER"などによるフォローアップ体制の確立。
2. アルゼンティンの適正規模の都市における、大腸癌早期発見のための協力。
3. コロンビアの適正規模の都市における、胃癌早期発見のための協力。
4. 帰国研修医のブラッシュアップのための短期研修コースの実施。この計画は数年前に本研修コース(筑波)から提出したが、実現されなかつた。
5. 消化器癌早期発見に関するJICAプロジェクト間の交流と協力。
6. それぞれの地区及び医療施設の規模を考慮した研修医数の増加。

VI. 資 料

1. セミナー参加者リスト

消化器癌病理学セミナー出席者リスト

氏名	所属機関
1. Miss. Maria Carlota CENOZ	ブエノスアイレス市役所IROVANO市立病院病理部
2. Miss. Claudia Elizabeth NAZER	ブエノスアイレス大学付属病院(学生)
3. Miss. Nydia Gabriela TRUBINT	ブエノスアイレス大学付属病院(学生)
4. Mr. Jorge Alberto GOMILA	メンドーサ州ALVEAR州立病院病理部
5. Mr. Marcelo Antonio THOME	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
6. Mr. Alberto BOFFI	ブエノスアイレス州POSADAS州立病院病理部
7. Mr. Marcelo Alberto GHIGLIANI	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部内視鏡
8. Mr. Felipe DE LAS HERAS	ブエノスアイレス大学消化器部
9. Miss. Rocio VIVAR PESANTES	消化器関係医師
10. Miss. Maria Beatriz CABALLER	ブエノスアイレス大学付属病院病理部
11. Mr. Marcelo MONTEROS ALVI	ブエノスアイレス大学付属病院病理部
12. Miss. Nancy PEREZ	ブエノスアイレス大学付属病院病理部
13. Mr. Alajandro Diego CABIDO	個人診療所
14. Mrs. Alicia LUIS	ブエノスアイレス州POSADAS州立病院内視鏡部
15. Mr. Cecilio Luis CERISOLI	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
16. Mr. Rodrigo TABORDA	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
17. Mr. Oscar M. O. LAUDANNO	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
18. Miss. Maria Fernanda DORADO	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
19. Mr. Oscar Jorge ROMANELLI	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部病理担当
20. Mr. Edgardo Vicente TRAPE	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部病理担当
21. Miss. Maria A. AVAGNINA IRIBARREN	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部病理担当
22. Mr. Ernesto DA RUOS	消化器関係医師
23. Mr. Julio Alberto YANEZ	ROFFO癌研究センター
24. Mr. Santiago DE ELIZALDE	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部病理担当
25. Miss. Maria del Carmen NUNES VELOSO	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部病理担当
26. Miss. Maria Fernanda NIETO	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部病理担当
27. Mr. Alfredo Eduardo CURRAS	ブエノスアイレス市役所FERNANDEZ市立病院消化器部
28. Mr. Haruo UEHARA	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
29. Mr. Luis CARO	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
30. Mr. Carlos Emilio CERINI	ブエノスアイレス大学付属病院顧問医師
31. Mr. Mario Oscar GRAMISU	消化器関係医師
32. Miss. Mirian BONFANTI	ブエノスアイレス州POSADAS州立病院病理部
33. Mr. Horacio Manuel PIANZOLA	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院病理部
34. Mr. Marcelo Andres PIANZOLA	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院病理部
35. Mr. Carlos Alberto CASALNUOVO	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部外科
36. Miss. Anabel OTTINO	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院病理部
37. Miss. Ana Maria CABANNE	ブエノスアイレス市役所UDAONDO消化器市立病院消化器
38. Miss. Susana HAMAMURA	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
39. Mr. Hugo Felipe CONCETTI	ブエノスアイレス市役所FERNANDEZ市立病院病理部
40. Miss. Adriana Rosa MARTINEZ	FAVALORO財団放射線部
41. Mr. Mario Cesar SALOMON	イギリス病院病理部
42. Mr. Miguel Angel TODA	FAVALORO財団放射線部
43. Mr. Felix Jose CORRONS	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院病理部
44. Miss. Lucia del Pilar CALANDRIA	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院病理部
45. Miss. Laura Andrea MOURAGUI	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院病理部
46. Mr. Jose Maria GARRIDO	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院消化器部
47. Mr. Julio Cesar POSSE	消化器関係医師
48. Mr. Jorge Rodolfo DARUICH	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院消化器部
49. Miss. Elsa Catalina CHAR	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院消化器部
50. Mr. Guido IANTORNO	ブエノスアイレス大学付属病院消化器部
51. Mr. Augusto CHAFLOQUE CAMARRA	ブエノスアイレス州MAGDALENA州立病院病理部
52. Mr. Ruben HOJMAN	ブエノスアイレス市役所UDAONDO消化器病院副院長
53. Miss. Paola CACERES	学生
54. Mr. Roberto Alberto TABORDA JUNCO	ブエノスアイレス付属病院消化器部
55. Miss. Andrea Rossana BRUNO	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院病理部
56. Miss. Maria Elisa SALUM	ブエノスアイレス付属病院消化器部内視鏡課
57. Miss. Alba Estela ALVAREZ DE MANETTI	ブエノスアイレス州POSADAS州立病院病理部
58. Miss. Gabriela MARRACO	ブエノスアイレス市役所UDAONDO消化器病院病理部
59. Miss. Zulema KOGAN	ブエノスアイレス市役所UDAONDO消化器病院病理部
60. Mr. Alberto Elias BERNEDO	ブエノスアイレス州SAN MARTIN州立病院消化器部

PARTICIPANTES
SEMINARIO PATOLOGIA GASTROINTESTINAL
EXBECARIOS JICA

- ① GERMAN ISAZA GAVIRIA ★
Agosto-Noviembre. 1983
Laboratorio privado
Calle 101 No. 29-14 Bogota, tel. 617 08 86
- ② LEONEL ANTONIO CHAVEZ VELA ★
Agosto-Noviembre/83
Jefe Depto. Patologia-CLINICA SAN RAFAEL
Carrera 8 No. 17-45 SUR-Bogota, tel. 272 0759
tel. 214 2565 (Res).
- ③ JOSE ALEJANDRO DORADO ROMO ★
Agosto-Noviembre/84
Profesor Patologia Universidad Javeriana
Carrera 7 No. 41-Bogota, tel. 2456555
- ④ ANITA HERRAN ★
Agosto-Noviembre/84
HOSPITAL MILITAR CENTRAL
Departamento de Patologia
- ⑤ MARTA HELENA ACOSTA DE MOLINA
Agosto-Noviembre/85
Instituto nacional de Cancerologia
Calle 1 No. 9-85 tel. 2335204
Carrera 20 No. 39-57 Apartamento: 202 tel. Bogota (Res).
- ⑥ MARTA HELENA PARDO VASQUEZ
Agosto-Noviembre/87
Consultorio Carrera 16 A #76-36 tel. 2362642, 2562760, 2578944
- ⑦ GONZALO BERMUDEZ VALENCIA ★
Agosto-Noviembre/87
Hospital Federico Lleras Acosta
Carrera 4B No. Calle 35 Ibague-Tolima tel. 982-640888
Carrera 7 # 6-78 (303) tel. 982-638066

- ⑧ FERNANDO SANZON GUERRERO ★
 Agosto-Noviembre/88
 Hospital Departamental de Narino tel. 927-234525
 Condominio Morasurco Bloque 1 apto 403 (Res) tel. 927-233838 Pasto-Narino
- ⑨ GERARDO ENRIQUE PRADA CHONA ★
 Agosto-Noviembre/89
 Hospital General de Kennedy
 Avenida 1 de Mayo Carrera 75 A-19 tel. 2995511
 Diagonal 174 #57-55 Int. 30 tel.
- ⑩ CESAR ALBERTO PANQUEBA TARAZONA ★
 Agosto-Noviembre/90
 Universidad Surcolombiana
 Avenida Pastrana Borrero Carrera 1 tel. 988-726752
 Carrera 10 #5-37 Apto. 203 Neiva tel.
- ⑪ ORLANDO GUERRERO RICAURTE ★
 Agosto-Noviembre/91
 Departamento de Patologia Hospital San Juan de Dios
- ⑫ MARIA CLAUDIA ABAUNZA ★
 Agosto-Noviembre/92
 Instituto Nacional de Cancerologia
 Calle 51 #28-65 Bogota tel. 2 35 9907 (Res)
- ⑬ JORGE H. MOGOLLON T.
 Agosto-Noviembre/93
 Hospital Erasmo Meoz
 Ave. 11 E No. 5A N-71 Guaimaral Cucuta, tel. 975-724579

CLINICA SAN RAFAEL

- ⑭ IVAN BAENE ★ CIRUJANO GENERAL
- ⑮ LUCIANO APONTE ★ ENDOSCOPISTA GASTROENTEROLOGO
- ⑯ OSCAR LOPEZ ★ JEFE GASTROENTEROLOGIA
- ⑰ MANUEL LAVERDE ★ GASTROENTEROLOGO

- ⑱ PABLO EMILIO ARCHILA ★ GASTROENTEROLOGO
- ⑲ GERMAN LIEVANO ★ JEFE CIRUGIA GENERAL
- ⑳ XIMENA CORTES ★ PATOLOGA

HOSPITAL SAN JUAN DE DIOS

- 21. ODILIO MENDEZ SANDOVAL ★ DIRECTOR DPTO. PATOLOGIA
- 22. HERNAN ALVARADO SANDOVAL ★ PATOLOGO
- 23. LILIA MARIA SANCHEZ ★ PATOLOGA
- 24. OSCAR GUTIERREZ CEBALLOS ★ GASTROENTEROLOGO
- 25. ALBERTO ANGEL ★ GASTROENTEROLOGO
- 26. CARLOS HUMBERTO GOLEGIAL G. ★ RESIDENTE PATOLOGIA
- 27. RENE ALEJANDRO BURGOS ★ RESIDENTE PATOLOGIA
- 28. VICTOR ARBELAEZ ★ RESIDENTE GASTROENTEROLOGIA
- 29. MARIA DEL PILAR ARCHILA G. ★ PATOLOGO
- 30. ENRIQUE CALVO ★ RADIOLOGO

HOSPITAL GRAL. UNIVERSITARIO

LA SAMARITANA

- 31. VICTOR ESPITIA ★ GASTROENTEROLOGO ENDOSCOPISTA
Transv. 60#97-35 TorreB Apto. 601 tel. 6139804
- 32. SIDNEY FASSLER ★
- 33. CARLOS TRIANA ★ RADIOLOGO
- 34. MARIO REY ★ RESIDENTE DE GASTROLOGIA

UNIVERSIDAD JAVERIANA

- 35. HUMBERTO QUINTANA ★ PATOLOGO
- 36. MARTA JIMENEZ ★ PATOLOGA
- 37. JULIA DUARTE ★ PATOLOGO
- 38. PAULA STIFKEN ★ JEFE PATOLOGIA
- 39. NUBIA DORADO ★ PATOLOGO
- 40. GUILLERMO A. LOPEZ ★ PATOLOGO
- 41. ALBERTO PALACIO ★ RADIOLOGO
- 42. GABRIEL ORTEGA PATOLOGO
- 43. JAIME ALVARADO ★ GASTROEINTEROLOGO

INSTITUTO NACIONAL DE CANCER

- 44. RICARDO OLIVEROS ★ CIRUJANO GASTROENTEROLOGO
- 45. JAIRO OSPINA ★ CIRUJANO GASTROENTEROLOGO
- 46. JOHN VILLAMIZAR ★ CIRUJANO GASTROENTEROLOGO
- 47. JORGE ESCOBAR ★ CIRUJANO GASTROENTEROLOGO
- 48. HERNAN OLARTE ★ CIRUJANO GASTROENTEROLOGO
- 49. ANDRES MU OZ ★ CIRUJANO GASTROENTEROLOGO
- 50. CARLOS REY LEON ★ CIRUJANO GASTROENTEROLOGO
- 51. JOSE VALBUENA ★ CIRUJANO GASTROENTEROLOGO
CALLE 81 No. 11-68 tel. 6104225

OTROS INVITADOS

52. MARCELO HURTADO ★ GASTROENTEROLOGO
Calle 120 #20-44 tel. 2138062
53. MARIA TERESA GALIANO ★ GASTROENTEROLOGO
Calle 50 No. 7-72 Consult. 407 tel. 3100572
54. LUIS GUILLERMO GUERRERO ★ GASTROENTEROLOGO
Transv. 19 No. 116-71 tel. 2137555
55. PILAR CASASBUENAS ★ GASTROENTEROLOGO
Calle 50 #8-27 consult. 505 tel. 2852797
56. LUIS EDUARDO CASTANEDA ★ GASTROENTEROLO
Cra. 23 No. 47-51 Piso 5 tel. 2875739
57. FERNANDO VELANDIA ★ PATOLOGO
-Presidente Sociedad Colombiana de Patologia
58. DAVID PAREDES ★ NEFROLOGO
CALLE 93 #20-02 UNIVERSIDAD NACIONAL DE COLOMBIA
59. LAZARO ARANGO ★ CIRUJANO
UNIV. CALDAS. FACULTAD MEDICINA
60. IVAN UNIGARRO ★ ENDOSCOPISTA
CALLE 19 Norte #5N-34 tel. 923-617775, 612609 Cali
61. ALBERTO ANGEL PINZON ★ CIRUJANO
CENTRO MEDICO ANGEL MANIZALES tel. 968 855525
62. RAFAEL ANGEL GONZALEZ ★ JEFE DEPTO. QUIRURGICO
CENTRO MEDICO ANGEL-MANIZALES
63. SANTIAGO GARCIA ★ MEDICO GENERAL
64. GERMAN PI ERES ★ CIRUJANO GENERAL
- SAMUEL REY ★ CIRUJANO GENERAL
65. DR. SHIRAKI EMBAJADA DEL JAPON ★

CONFERENCISTAS

66. PROF. Dr. KYOICHI NAKAMURA

67. DR. HIDEYASU KIYONARI

68. PROF. DR. TADAKAZU SHIMODA

69. SR. HISATERU NIWA

2. クエッションネア集計結果

1. アルゼンティン国(帰国研修員15名中9名が回答)

質問1 将来の講座としてどのようなテーマが必要か？

- (1) 結腸癌(6名)と胃癌
- (2) 食道癌(4名)
- (3) 肝臓癌(2名)と慢性肝炎
- (4) バイオロジカル・マーカー利用による初期診断の新方法
- (5) 胆管
- (6) 膵臓

質問2 本コースではどのテーマを追加又は強化すべきか？

- (1) 肝臓病理学(5名)と肝臓腫瘍
- (2) 胆管(2名)
- (3) 早期胃癌(2名)
- (4) 炎症性結腸疾患(2名)と結腸ポリープ
- (5) 膵臓
- (6) 新技術の適用(DNA学習・予後の要因)
- (7) 癌前ステージの病巣診断及びその再発病巣との識別
- (8) 免疫組織化学・異常流出の細胞測定、
生物遺伝学及びその他の最新の発生診断要素

質問3 コース期間はどのくらいが適当か？

- | | |
|-----------------|----|
| (1) 3カ月 | 6名 |
| (2) 2~3カ月 | 1名 |
| (3) 4カ月 | 1名 |
| (4) 2カ月 | 1名 |

質問4 1年のうちどの月が適切か？

- | | |
|------------------|----|
| (1) 9月～11月 | 5名 |
| (2) 2月～3月 | 2名 |
| (3) 2月～4月 | 1名 |
| (4) 1月～3月 | 1名 |
| (5) 3月～5月 | 1名 |

質問5 集団研修プログラムについての意見は？

- | | |
|-------------------------------------|----|
| (1) レベル高く、症例良し、範囲良し、素晴らしい／非常に良い ... | 6名 |
| (2) 適切で活用可能 | 1名 |
| (3) より集中的に行うべきだ | 1名 |
| (4) 必要 | 1名 |

質問6 個別研修プログラムについての意見は？

- | | |
|----------------------------|----|
| (1) すばらしかった | 3名 |
| (2) 非常に良いがもっと長期にすべきだ | 3名 |
| (3) 実習をもっと多くすべきだ | 1名 |
| (4) 一層の協力と援助が必要だった | 1名 |
| (5) 重要である | 1名 |

質問7 JICAにどの様な協力を望むか？

- | | |
|---|----|
| (1) 文献(胃腸病理学)供与 | 4名 |
| (2) ブエノス・アイレス州早期消化器病研究
プロジェクト協力を実現化してほしい | 4名 |
| (3) コース/セミナーの計画 | 2名 |
| (4) 他の医師(内視鏡医)の研修 | 1名 |
| (5) 日本で再研修を受けたい | 1名 |

II. コロンビア国(帰国研修員13名中11名が回答)

質問1 将来の講座としてどのようなテーマが必要か？

- (1) 結腸癌病理学(7名)
- (2) 胃癌の組織発生(4名)、特に免疫組織化学
- (3) 肝臓(2名)及び胆管腫瘍(2名)
- (4) 小のう癌(2名)
- (5) 消化管の間充組織腫瘍
- (6) 食道腫瘍・仮性腫瘍
- (7) 神経性内分泌腫瘍
- (8) 胃腸炎症性病理学
- (9) 限局性回腸炎及び潰瘍性結腸炎
- (10) 食道・胃・結腸及び潰瘍性結腸炎の形態と構造の研究

質問2 本コースではどのテーマを追加または強化すべきか？

- (1) 胆のう・胆管腫瘍病理学(4人)
- (2) 結腸の炎症性疾患(3人)・ディスプラシア(3人)及びその癌種との関係
- (3) 消化管の増殖性リンパ病理学及びリンパ腫
- (4) 診断新技術の強化
- (5) 放射線医学解説
- (6) 結腸NOVO癌
- (7) ポリープ・腺腫と結腸癌の関係
- (8) 肝臓病理学
- (9) 小腸病理学(炎症性・腫瘍性)
- (10) 胃癌発見についての住民教育プログラム
- (11) 胃癌と幽門らせん菌による感染の疫学的関連
- (12) 初期の胃癌、結腸癌の疫学・内視鏡・放射線治療
- (13) バレットの食道及び食道腺癌
- (14) 限極性回腸炎、潰瘍性結腸炎

質問3 コース期間はどのくらいが適当か？

- (1) 3カ月 7名
- (2) 2～3カ月 2名
- (3) 4～5カ月 1名
- (4) 4～6カ月 1名

質問4 1年のうちどの月が適当か？

- (1) 8月～11月 3名
- (2) 9月～11月 6名
- (3) 2月～5月 2名
- (4) いつでもよい 1名

質問5 集合研修プログラムについての意見は？

- (1) 豊富な経験に基づく判断基準に統一され、すばらしい 4人
- (2) 意見と経験の交換が可能で適切 2人
- (3) 目的は完全に達成されている 2人
- (4) 基礎プログラムがすばらしい 1人
- (5) 期間、テーマが適当 1人
- (6) 放射線治療の講義が不足 1人

質問6 個別研修プログラムについての意見は？

- | | |
|--------------------------------------|------|
| (1) 豊富な症例と貴重な学術的活動を含むプログラムとすべきだ | 2名 |
| (2) 非常に重要 | |
| (3) 教材が豊富で最高 | |
| (4) 学習面が素晴らしい | |
| (5) 特定された集中研修が可能 | |
| (6) もっと多くの症例を | } 1名 |
| (7) より限定されたプログラムを | |
| (8) 特定の目的に方向づけされるべきだ | |
| (9) 症例を教える研修医の協力を力点を置くべきだ | |
| (10) 計画・準備不足 | |

質問7 JICAにどのような協力を望むか？

- | | |
|---|----|
| (1) 文献(胃腸病理学) 供与 | 5名 |
| (2) 機材(ビデオ内視鏡、顕微鏡他) 供与 | 3名 |
| (3) コース/セミナーの計画 | 2名 |
| (4) コミュニケーションの維持 | 1名 |
| (5) 他の医師の研修 | 1名 |
| (6) 困難な症例に関し、ラミネート又はブロックを
送って早急に相談するシステム | 1名 |
| (7) 胃及び結腸直腸癌早期診断センター設立援助 | 1名 |

3. セミナープログラム

SEMINARIO SOBRE "PATOLOGIA GASTROENTEROLOGICA"

Buenos Aires, 2 y 3 de Diciembre de 1993.
Hospital de Clínicas "José de San Martín"
Aula Nº 40, piso 4º
Av. Córdoba 2351, Capital Federal.

Organizado por:

**AGENCIA DE COOPERACION
INTERNACIONAL DEL JAPON**

**HOSPITAL DE CLINICAS
"JOSE DE SAN MARTIN"**

PROGRAMA

Día 2 de Diciembre

10:30 - 11:00

- Inscripción.

11:00 - 11:30

- Palabras de Inauguración del Seminario:

- Sr. Representante Residente de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) en la Argentina, **Dn. Reiji KAWAKAMI**.
- Sr. Profesor Titular de Medicina, de la Facultad de Medicina de la Universidad de Buenos Aires; Coordinador de Especialidades del Departamento de Medicina del Hospital de Clínicas "José de San Martín", **Prof. Dr. Carlos E. CERINI**.

11:30 - 12:30

Título:

- **Sistema libre de fallas en exámenes radiológicos y endoscópicos.**

Disertante: **Dr. Hideyasu KIYONARI**

Ciclo de Preguntas y respuestas.

-Coffe break.

12:45 - 13:45

Título:

- **Características patológicas de cáncer colorrectal temprano y sus relaciones con carcinoma avanzado.**

Disertante: **Prof. Dr. Tadakazu SHIMODA**

Ciclo de preguntas y respuestas.

13:45 - 14:30

Título:

- **Relevamiento masivo del aparato digestivo en Japón.**

Disertante: **Dr. Hideyasu KIYONARI**

Ciclo de preguntas y respuestas.

Fin de la primera jornada.

11:00 - 12:00

Título:

- **Diferencias clínico-patológicas de los cánceres gástricos desde el punto de vista de la histogénesis.**

Disertante: Prof. Dr. Kyoichi NAKAMURA

Ciclo de preguntas y respuestas.

12:00 - 13:00

Título:

- **Histogénesis del tipo de adenocarcinoma diferenciado de estómago y sus problemas diagnósticos.**

Disertante: Prof. Dr. Tadakazu SHIMODA

Ciclo de preguntas y respuestas.

-Coffe Break.

13:15 - 14:15

Título:

- **Histogénesis, morfología de microcarcinoma de novo y proceso de crecimiento del cáncer colorrectal.**

Disertante: Prof. Dr. Kyoichi NAKAMURA

Ciclo de preguntas y respuestas.

- Clausura del Seminario.
- Entrega de Certificados de asistencia.
- Cocktail organizado por la Misión.

Plaza Hotel, Salón San Martín
Florida 1005, Capital Federal.
19:00 horas.

(Confirmar asistencia al Seminario y al Cocktail con anticipación, a los teléfonos de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón -JICA-: 313-7130/7136/8901. Gracias).

ENTRADA LIBRE

S E M I N A R I O

"PATOLOGIA GASTROINTESTINAL"

HOTEL BOGOTA PLAZA - SALON "LE PAVILLON"

DICIEMBRE 10 DE LAS 14:00 A LAS 17:30

DICIEMBRE 11 DE LAS 09:00 A LAS 14:00

FECHA	HORA	PROGRAMA
10.12.93	14:00 - 15:30	DR. KYOICHI NAKAMURA HISTOGENESIS, MORFOLOGIA DE MICROCARCINOMA DE NOVO, Y PROCESO DE CRECIMIENTO DEL CANCER COLORRECTAL.
10.12.93	16:00 - 17:30	DR. TADAKAZU SHIMODA PATHOLOGICAL CHARACTERISTICS OF EARLY COLORECTAL CANCER AND ITS RELATIONSHIP TO ADVANCED CARCINOMA
11.12.93	09:00 - 10:30	DR. HIDEYASU KIYONARI FAIL-SAFE SYSTEM ON RADIOLOGICAL & ENDOSCOPIC EXAMINATION. MASS SURVEY OF DIGESTIVE ORGAN IN JAPAN.
11.12.93	11:00 - 11:30	DR. LEONEL CHAVEZ DELA PRESENTACION DEL PROTOCOLO DEL CARCINOMA GASTRICO EN BETANIA. INTERVENCION INSTITUTO NACIONAL DE CANCEROLOGIA.
11.12.93	11:30 - 11:45	PRESENTACION VIDEO, UNIVERSIDAD DE CALDAS.

HOSPITAL DE CLINICAS
"JOSE DE SAN MARTIN"

AGENCIA DE COOPERACION
INTERNACIONAL DEL JAPON (JICA)

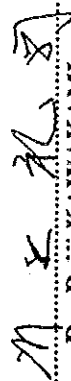
Se otorga el presente **CERTIFICADO a:**

Dra. María Carlota CENOZ

por su participación en el Seminario sobre

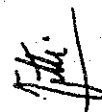
"Patología Gastroenterológica"

celebrado en la ciudad de Buenos Aires
los días 2 y 3 de Diciembre de 1993



Dn. Reiji KAWAKAMI
Representante Residente
JICA - Oficina en Argentina

Prof. Dr. Kyoichi NAKAMURA
Jefe
Misión Japonesa



Dr. Florentino SANGUINETTI
Director
Hospital de Clínicas
"José de San Martín"

5. 団長閉講式あいさつ(コロンビア)

SEÑORES DOCTORES EXBECARIOS, DOCTORES ESPECIALIZADOS EN EL CAMPO DE LA PATOLOGIA GASTROINTESTINAL Y CIRUGIA Y DOCTORES PRESENTES.

Primeramente, quisiera decir que nosotros estamos muy alegres de poder estar entre ustedes y tener la oportunidad de expresarme.

El curso Internacional de avances en Patología Gastrointestinal, se realiza una vez al año en Japón, con una duración de tres meses, con la participación de patólogos japoneses y la colaboración de JICA.

En este año, en noviembre terminó el decimoprimer curso y los diez patólogos que participaron en este curso, han estudiado apasionadamente lográndose excelentes resultados.

El objetivo del curso es introducir los últimos avances de la Patología gastrointestinal del Japón.

Hasta el presente, han participado en el curso 128 patólogos de 20 países, incluyendo 13 colombianos.

Dado que en principio solo hay una vacante por país para participar en este curso, en esta oportunidad, estamos aquí dentro de un programa que es parte del mencionado curso, dictando seminarios en dos países y de esta manera nuestro deseo fué llegar con nuestro conocimiento para un mayor número de personas y poder discutir ampliamente con ustedes.

Por este motivo, podemos decir que ahora se ha celebrado el primer seminario sobre avances en Patología Gastroenterintestinal gracias al esfuerzo de los ex-becarios y de los doctores colombianos.

A través del seminario, nosotros procuramos promover la mutua amistad entre Colombia y Japon, para que la misma sea mas profunda e intima.

Esperamos que este seminario haya sido muy provechoso para intercambiar opiniones entre los patólogos de ambos países y contribuya al progreso de nuestros conocimientos en el campo de la medicina.

Finalmente, deseamos seguir con nuestros esfuerzos para que seminarios como este puedan celebrarse periodicamente en el futuro.

Muchisimas gracias.

6. クエツシヨネア

QUESTIONARIO

PARA

EX-BECARIOS DEL CURSO INTERNACIONAL DE
AVANCES EN PATOLOGIA GASTROINTESTINAL

(JICA)

PAIS:

NOMBRE:

" El Curso Internacional de Avances en Patología Gastrointestinal " fue establecido en 1983 y desde entonces 128 patólogos de 20 países distintos participaron hasta 1993. La Agencia de Cooperación Internacional del Japón(JICA) decidió hacer una encuesta de seguimiento para los ex-becarios en Argentina y Colombia este año.

Un grupo de JICA visitará estos países desde el fin de Noviembre hasta mediados de Diciembre de 1993 para tener la oportunidad de entrevistar y realizar un Seminario para introducir nuevas técnicas y conceptos en este campo. Dicha encuesta se utilizará como dato básico para la entrevista y el seminario.

JICA desea su amable cooperación.

1. Año de participación.

2. Posición ocupada en el año en que participó.

3. Posición actual.

4. ¿Qué temas son útiles para el futuro del curso ?

5. ¿Qué temas tiene que añadir o reforzar ?

6. ¿Qué duración debe tener el curso ?

7. ¿Qué época del año es deseable ?

8. ¿Qué opinión tiene Ud. sobre el programa de entrenamiento en grupo ?

9. ¿Qué opinión tiene Ud. sobre el programa de entrenamiento individual ?

10. ¿Qué opinión tiene Ud. sobre su vida diaria durante su estancia en Japón ?

11. ¿Qué tipo de colaboración desea Ud. de JICA ?

12. ¿Tiene otros comentarios en general ?

Muchas gracias por su
cooperación

JICA

